

情報通信分野における 戦略重点科学技術の俯瞰図 [改訂版]

平成19年 4月 3日

戦略重点科学技術：科学技術を牽引する世界最高水準の次世代スーパーコンピュータ
【予算総額：77億円（35億円）】

領域・分野（個別技術）

スーパーコンピュータ
システム技術

シミュレーション技術

他の戦略重点科学技術
に含まれる関連施策

戦略重点
科学技術
に含まれ
ない関連
施策

シミュレ
ーション技術

計算機アー
キテクチャ
技術

ハードウェア
要素技術

システム
技術

成果の
受け渡し
連携

最先端・高性能汎用スーパーコン
ピュータの開発利用（文部科学省）
77.4億円（35.47億円）

MIRAIプロジェクト
（経済産業省：運営費交付金（NEDO）） 62.0億円（45.0億円）

極端紫外線（EUV）露光システム開発プロジェクト
（経済産業省：運営費交付金） 15.3億円（19.0億円）

次世代プロセスフレンドリー設計技術開発
（経済産業省：運営費交付金） 9.4億円（9.9億円）

革新的シミュレーションソフトウェア
の研究開発（文部科学省）
10.0億円（11.6億円）

マルチスケール・マルチフィジックス現象の統合シミュレーション
（文部科学省：運営費交付金（JST）） 13.9億円（9.8億円）

計算科学による新たな知の発見・統合・創出事業（通称：PACS-CS）
（文部科学省：運営費交付金（国立大学法人）） 844.9億円の内数
（800.5億円の内数）

分散共有型研究データ利用基盤の整備（通称：GRAPE-DR）
（文部科学省：科学技術振興調整費） 368.0億円の内数
（398.0億円の内数）

将来のスーパーコンピューティングのための要素技
術の研究開発（文部科学省） 6.8億円（13.1億円）

超高速コンピュータ網形成プロジェクト（NA
REGI）（文部科学省）：平成15～17年度

ITBL（IT-Based Laboratory）構築及び活用
（文部科学省）：平成13～17年度

目標

2010年度までの
目標
2011年度末までの
本格稼働を目指し、
2010年度末までに
世界最高水準の演
算速度（10ペタ
FLOPS級）を誇る
スーパーコンピュ
ータの主要部を製作、
完成させ、一部運
用を開始する。

成果目標

○2012年度には
画期的な次世代材
料の設計や新薬
の革新的な設計な
どを可能とするシ
ミュレーションを実
現する。

○スーパーコン
ピュータの開発後
は、その要素技術
の高性能コン
ピュータおよび情
報機器への活用を
促進する。

基礎

応用

普及・展開

戦略重点科学技術 次世代を担う高度IT人材の育成 【予算総額：8億円(6億円)】

領域・分野(個別技術)

セキュリティー技術

ソフトウェア開発技術

戦略重点科学技術
に含まれない関連施策

.....→ 成果の
受け渡し
←..... 連携

先導的ITスペシャリスト
育成推進プログラム
(文部科学省)
8.0億円(6.3億円)

新興分野人材育成(文部科学省)
科学技術振興調整費 368.0億円の内数
(科学技術振興調整費 398.0億円の内数)

高度情報通信人材育成体系の開発(総務省)
4.0億円(2.2億円)

初等中等教育段階からの高度IT人材の早期育成
(経済産業省) 5.5億円の内数(4.4億円の内数)

未踏ソフトウェアの創造(経済産業省)
8.1億円(8.9億円)

ITスキル標準、組込みスキル標準、情報システムユーザースキル標準の普及及び高度化(経済産業省)
22.0億円の内数(15.9億円の内数)

情報処理技術者試験の運営(経済産業省)
(試験受験料による独立会計)

産学連携による実践的IT教育の確立(経済産業省)
—— (2.5億円)

情報通信人材研修事業支援制度(総務省)
3.1億円(3.5億円)

派遣型高度人材育成協同プラン(文部科学省)
2.3億円(2.5億円)

目標

研究開発目標

○2009年度までに、
大学・大学院において
産学連携による
人材育成プログラム
を開発・実施する
拠点形成を支援す
る。

成果目標

○2009年度までに、
世界最高水準のソ
フトウェア技術者
として求められる専
門的スキルを有する
とともに、社会情勢
の変化等に先見性
を持って柔軟に対処
し、企業等において
先導的役割を担う
人材の育成システム
を構築する。

基礎

応用

普及・展開

領域・分野
(個別技術)

設計技術
(超微細化・低消費電力化)

製造技術
(超微細化・低消費電力化)

製品企画力技術

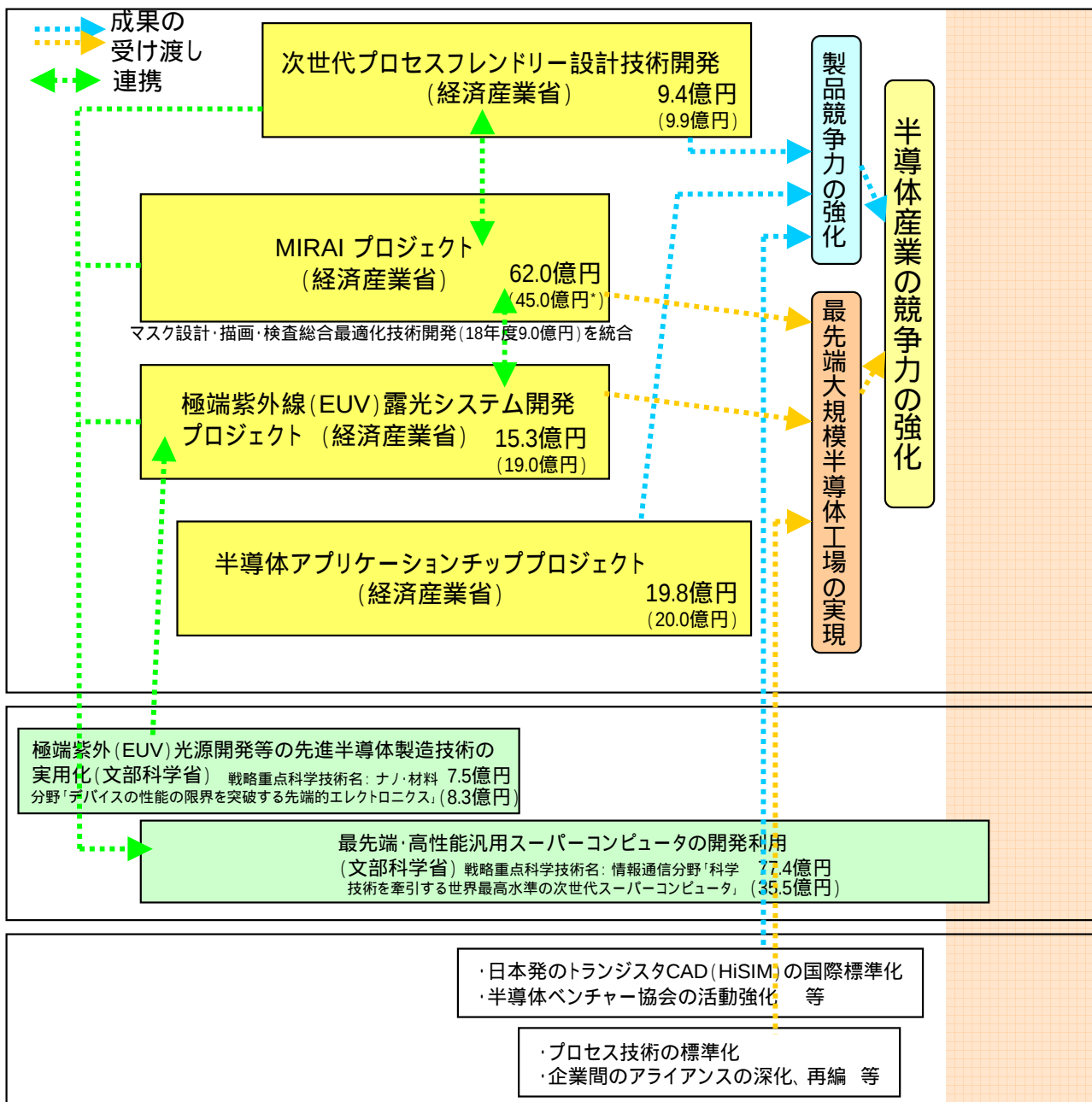
他の戦略重点科学技術
に含まれる関連施策

戦略重点科学技術
に含まれない関連施策

戦略重点科学技術：次世代半導体の国際競争を勝ち抜く超微細化・
低消費電力化及び設計・製造技術

【予算総額：106億円（94億円*）】

*印：予算の一部が戦略
重点科学技術の対象
(戦略重点対象額を記載)



目標

【大政策目標】イノベータ日本へ革新を続ける強靱な経済産業を実現
【個別政策目標】現在の半導体の動作限界を打ち破る革新的デバイスを実現する。
至な成果目標】。45ナノメートルレベル以細の微細化を可能とする半導体プロセス材料技術を確認
するとともに、その後の更なる微細化技術の進展も見据えつつ、世界最先端の
省エネルギーなエレクトロニクス社会の基盤となる高速度低消費電力デバイスを実現する。
高効率機能性デバイス及び設計技術を実現し、省エネルギーなエレクトロニクス社会を実現する。

基礎

応用

普及・展開

領域・分野
(個別技術)

戦略重点科学技術：世界トップを走り続けるためのディスプレイ・
ストレージ・超高速デバイスの中核技術 【予算総額：24億円（8億円）】

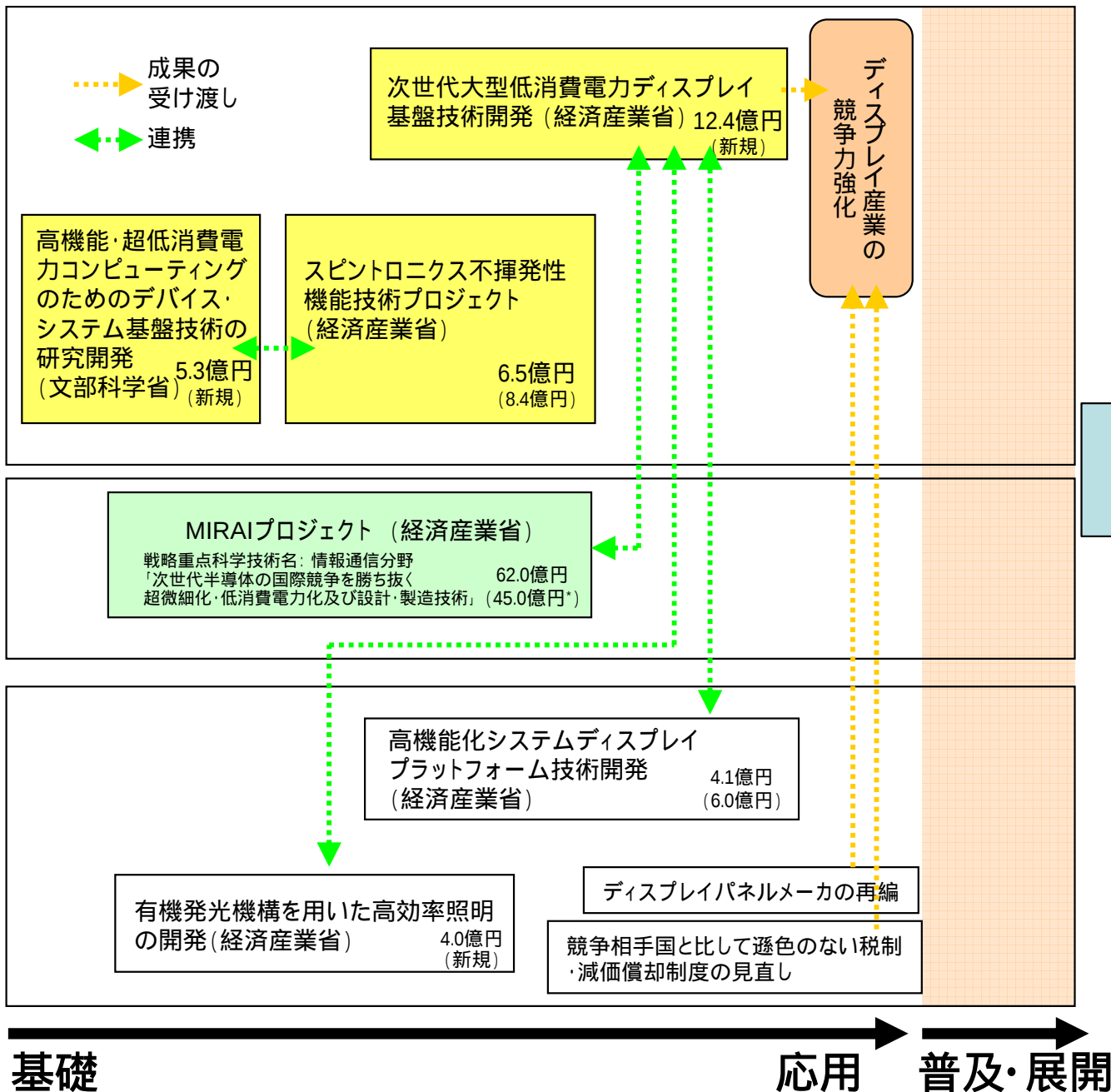
ディスプレイ技術

ストレージ技術

超高速技術

他の戦略重点科学技術
に含まれる関連施策

戦略重点科学技術
に含まれない関連施策



目標

【天政策目標】イノベータ日本、革新を続ける強靱な経済産業を実現
【個別政策目標】日本発の革新的な情報家電を実現し世界に普及する。
【主な成果目標】。革新的材料などによる高効率な表示発光デバイスを用いた次世代ディスプレイ
を実現し、大画面・高精細なコンテンツ視聴を可能とするなど省エネルギーで
豊かな社会を実現する。
。大容量・高速・低消費電力のギガビット級メモリ・テラビット級ストレージを実現し、
種々の環境において増大する情報量に対応した高効率な情報の蓄積を実現する。

戦略重点科学技術：世界に先駆けた、家庭や街で生活に役立つロボット中核技術【予算総額：28億円*（11億円*）】

*印：予算の一部が戦略重点科学技術の対象（戦略重点対象額を記載）

ロボット領域

先端ものづくりのためのロボット

安全・安心のためのロボット

安全で快適な移動のためのロボット

スムーズで直感的な対話ができるロボット

家庭や街で生活に役立つロボット

要素技術

人とロボットのインタラクション技術

RTモジュール高度化技術

RTシステム統合連携技術

戦略重点科学技術に関連しない

次世代ロボット知能化技術開発

（経済産業省）

19.0億円（新規）

戦略的先端ロボット要素技術開発プロジェクト

【7つのミッション】

- ・柔軟物取扱い可能生産RT
- ・人間・ロボット協調型セル生産RT
- ・片付け作業用マルチプレクシオンRT
- ・高齢者対応コミュニケーションRT
- ・搬送RT
- ・被災建造物内移動RT
- ・建設系産業廃棄物処理RT

（経済産業省）

3.3億円*（3.7億円*）

サービスロボット市場創出支援事業

- ・ユーザーとメーカーが共同した実際の現場に導入するサービスロボットの開発（安全技術・評価手法開発）
- ・具体的な用途は、清掃、案内、点検、工場内搬送、警備等

（経済産業省） 3.3億円*（4.2億円*）

ネットワーク・ヒューマン・インターフェースの総合的な研究開発

（ネットワークロボット技術）

（総務省）

2.2億円
（3.0億円）

RTモジュール高度化技術

次世代ロボット共通基盤開発プロジェクト（経済産業省）

- ・RTミドルウェアを実装した共通基盤（画像、音声、運動制御）の開発

3.8億円（4.0億円）

RTシステム統合連携技術

RTミドルウェア開発（経済産業省）【終了】

安全・安心のためのロボット 他

人間支援型ロボット実用化プロジェクト（経済産業省）

- ・介護補助、リハビリ支援等の作業を補助・支援するロボットの開発及び実証実験

8.5億円（9.0億円）

家庭や街で生活に役立つロボット 他

次世代ロボット実用化（万博）プロジェクト（経済産業省）【終了】

安全・安心のためのロボット

ロボット等によるIT施工システムの開発

（国土交通省） 1.4億円（1.5億円）

- ・ある程度自律作業が可能なIT施工システムの開発

先端ものづくりのためのロボット

いちご収穫ロボットの開発

（農林水産省）

- ・傷つけずに収穫適期のいちご果実のみを選択収穫する実用ロボットの開発

18.9億円の内数（18.9億円の内数）

成果の受け渡し

連携

目標

- 2015年までに、各ロボット領域における技術の実用化
- ロボットを構成する高性能なモジュールと信頼性の高いプラットフォームの確立
- ネットワーク技術とロボット技術の融合による人と共存するロボット（ネットワークロボット）の実現

基礎

応用 普及・展開

戦略重点科学技術：世界標準を目指すソフトウェアの開発支援技術

【予算総額：34億円*(14億円*)】

領域・分野(個別技術)

オープンソースソフトウェア技術

ITプラットフォームの設計開発技術

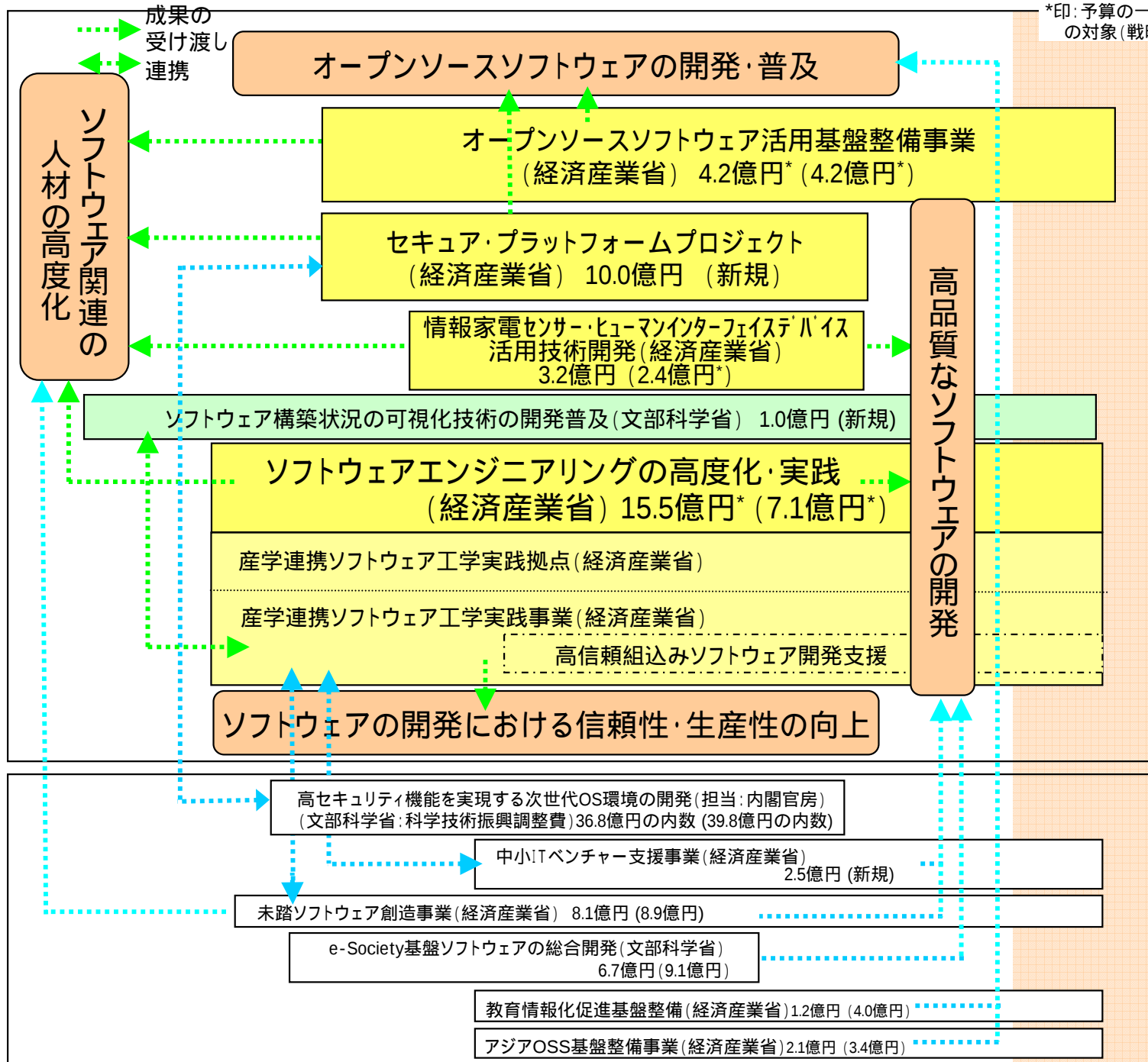
情報家電センサー・ヒューマンインターフェイス活用技術

高信頼ソフトウェア開発の基盤技術

ソフトウェアの生産性向上技術

組込みソフトウェアプラットフォーム

戦略重点科学技術に含まれない関連施策



*印：予算の一部が戦略重点科学技術の対象(戦略重点対象額を記載)

目標

。産学官が連携することにより、実践を通じて産み出された様々なソフトウェアエンジニアリングに関する知識を体系化及び普及・展開することにより、ソフトウェアに対するユーザ満足度の向上を目指す。

。次世代ITプラットフォームの開発の信頼性等に関する統一的な基準を設定し、政府・民間への適用を実施する。

。我が国のソフトウェア産業の競争力の底上げを図るとともに、政府を含めたユーザの有効な選択肢の拡大を図る。

基礎

応用 普及・展開

領域・分野 (個別技術)

戦略重点科学技術：大量の情報を瞬時に伝え誰もが便利・快適に利用できる
次世代ネットワーク技術【予算総額：184億円(136億円)】

ネットワークのオープン化(水平展開技術)(異種ネットワークの連携・融合)

デペンダブルなネットワーク・オペレーションシステム

障害の検知及びネットワーク犯罪の自動検出・回復・予防

ネットワーク監視・制御技術

大容量ネットワーク

低消費電力

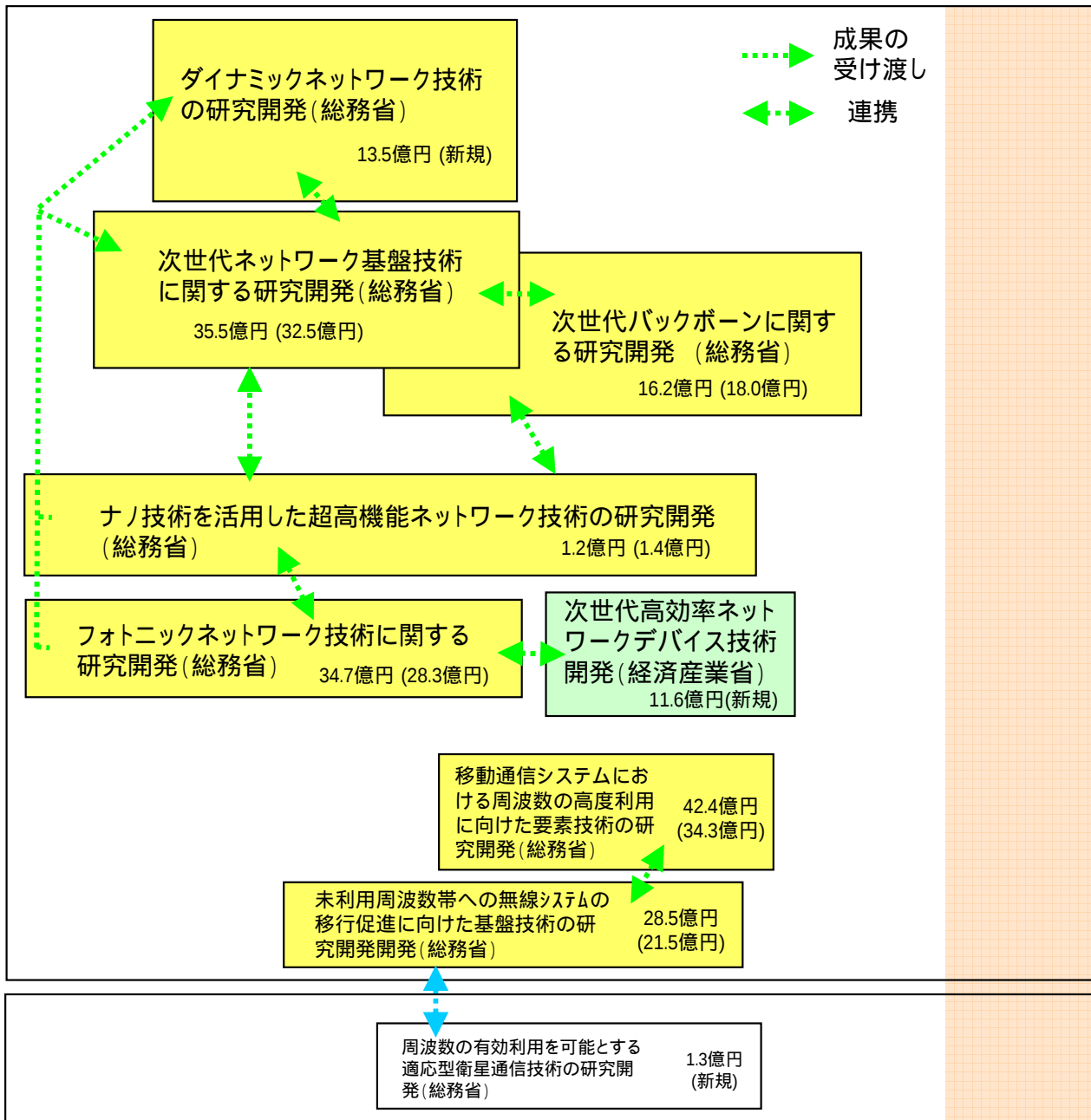
超高速ネットワーク

超高速ワイヤレスネットワーク

周波数有効利用技術

未利用周波数帯の開拓、周波数の移行促進

戦略重点科学技術
に含まれない関連施策



目標

●個別政策目標
●世界一便利で快適な情報通信ネットワークを実現する。
●インターネットの基幹通信網(バックボーン)の強化に必要な技術を確認し、インターネットの高品質・高信頼化の実現を可能とする。
●次世代ネットワークアーキテクチャ等を先駆けて確立する。
●超画質のデジタル画像の鑑賞や携帯端末による高画質の動画鑑賞を通信品質や受信形態を自由に選択しながら安定して行える次世代ネットワークを実現する。
●ネットワークや端末の種類を問わず、必要な情報を途切れなく提供するための次世代ネットワークを実現する。
○世界に先駆けて、未利用周波数帯の開拓や周波数有効利用技術の高度化を図り、いつでも、どこでもネットにつながるコネクタスネット環境を実現する。
○電子・光技術を活用した高速・高効率なネットワークデバイスを実現する。

基礎

応用 普及・展開

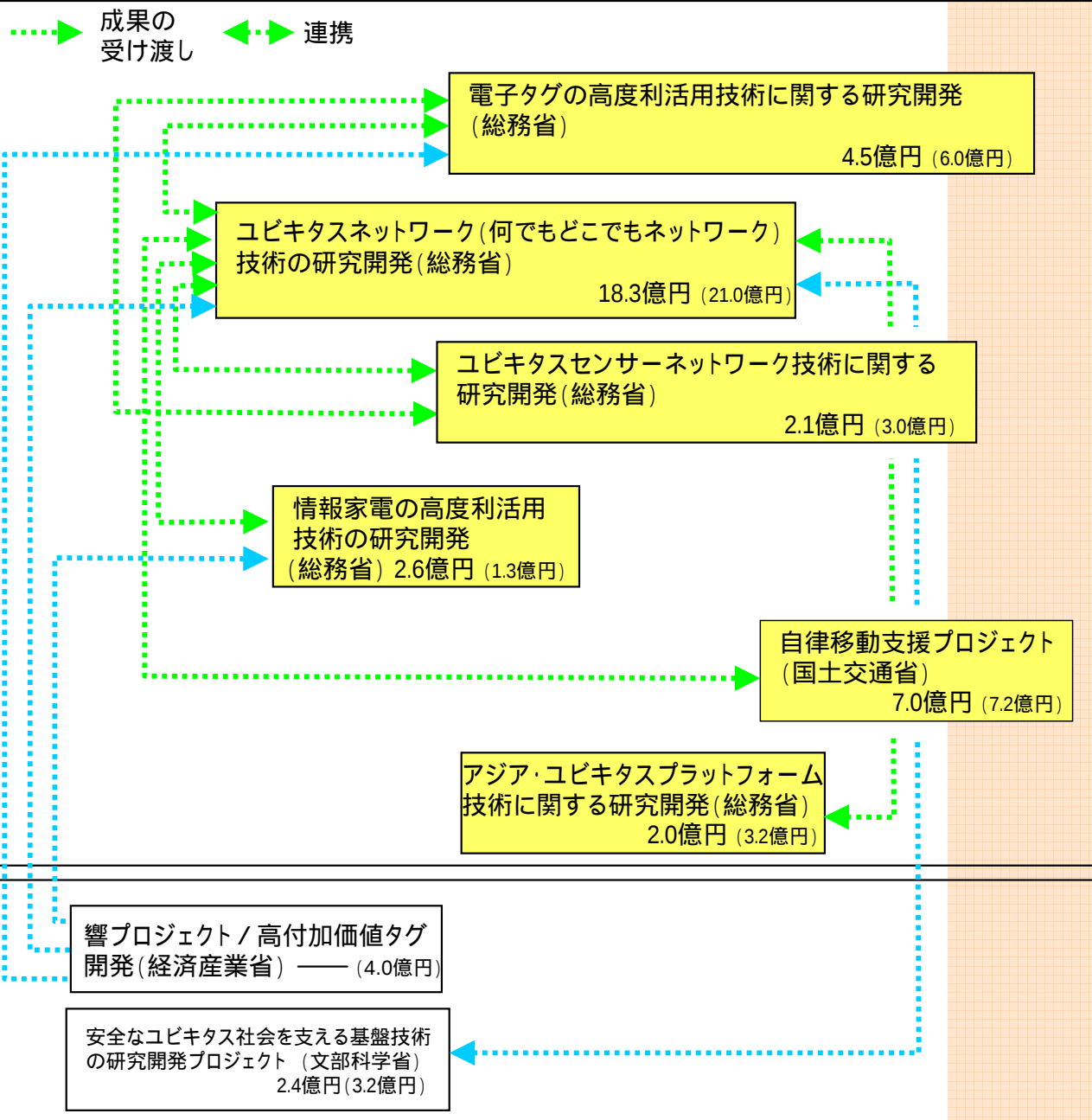
領域・分野
(個別技術)

- タグ情報漏洩防止
- 状況認識・状況適応ミドルウェア
- 自律分散ネットワーク
- センサーネットワーク
- グローバル認証・認可・課金管理(AAA)
- ユニバーサル社会の行動支援プラットフォーム
- トレーサビリティ基盤

戦略重点科学技術
に含まれない
関連施策

戦略重点科学技術：人の能力を補い生活を支援するユビキタスネットワーク利用技術

【予算総額：37億円(42億円)】



目標

【大政策目標】イノベータ日本 革新を続ける強靱な経済・産業を実現

【個別政策目標】 どんなモノでも情報でつながり便利に利用できるユビキタス端末

(スマートな電子タグ等)技術とネットワーク基盤を実用化する。

主な成果目標

- 。電子タグ等ユビキタスネットワーク技術を活用し、生産・流通・消費を跨るシームレスなトレーサビリティシステムを実現する。
- 。100億個以上の端末(電子タグ・センサー・情報家電等)の協調制御を実現し、モノとモノを情報でつながり実世界の状況を認識して便利に安心して利用する。

基礎

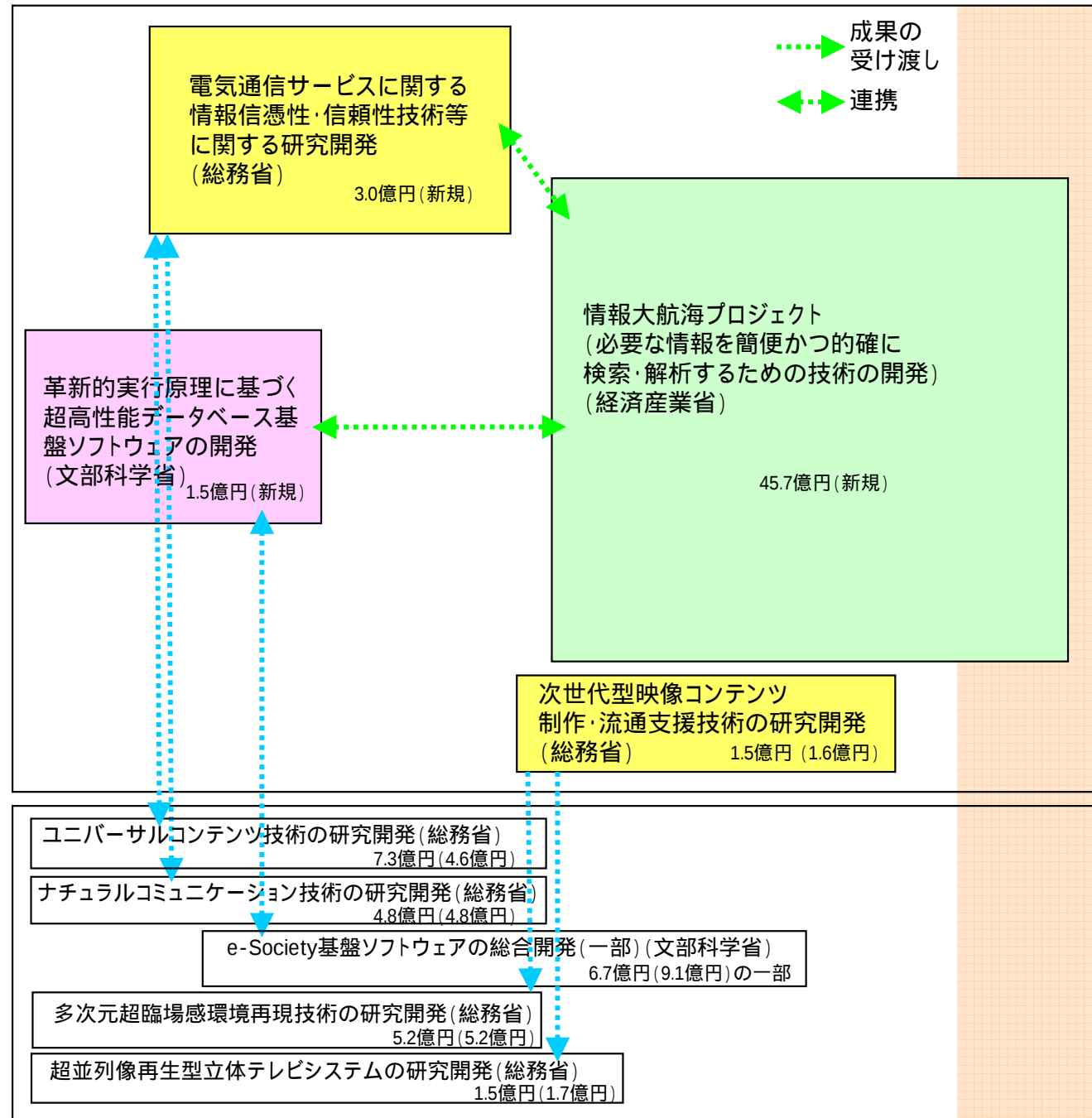
応用 普及・展開

領域・分野
(個別技術)

- 情報の信頼性・信憑性
検証技術
- 情報分析技術
- 知能創造技術
- 大規模分散システム
構成技術
- 検索・解析技術
- 超大容量映像・情報
構造化・マイニング技術
- コンテキスト高次化技術
- クローリング技術
- 超高精細映像の撮像・
転送・蓄積・表示システム

戦略重点科学技術
に含まれない関連施策

世界と感動を共有するコンテンツ創造及び情報活用技術 【予算総額: 52億円(2億円)】



目標

- Web上及び非Web上にある大量かつ多様な情報を、個人が簡便、的確、かつ安心して収集、分析できる次世代の情報検索・情報解析技術基盤を構築する。
- 超高精細映像(800万画素クラス)について、全国規模で確実なライブ配信を可能とする。
- 2012年までに、情報爆発時代に対応した超巨大データの戦略的活用を可能とする。

基礎

応用 普及・展開

等

領域・分野
(個別技術)

戦略重点科学技術: 世界一安全・安心なIT社会を実現するセキュリティ技術

【予算総額: 49億円*(30億円*)】

目標

予防

事故対策

コンテンツ流通に係る
情報セキュリティ技術

ネットワークに係る
情報セキュリティ技術

情報処理に係る
情報セキュリティ技術

情報漏えい対策技術の研究開発
(総務省) 10.0億円(新規)

経路ハイジャックの検知・回復・予防に関する研究開発
(総務省) 1.8億円(2.0億円)

スパムメールやフィッシング等サイバー攻撃の停止
に向けた試行(総務省) 8.8億円(9.8億円)

連携(ポット対策)

ポットの解析、駆除ツール開発等

不正アクセス行為等の抑止・拡大防止、脆弱性の分析等

コンピュータセキュリティ早期警戒体制の整備事業(経済産業省) 15.0億円*(10.5億円*)

電子認証基盤構築のための調査研究等

根本的な問題解決等に繋がる新世代の情報セキュリティ技術の開発

企業等における自律的・継続的な対策を推進するための技術開発等

企業・個人の情報セキュリティ対策事業(経済産業省) 13.5億円*(7.3億円*)

安全・安心な
ネットワーク環境の整備

安全・安心な
情報処理環境の整備

- 全ての政府機関において「政府機関統一基準」が求める水準の対策を実施する。
- 重要インフラにおけるIT障害の発生を限りなくゼロにする。
- 企業における情報セキュリティ対策の実施状況を世界トップクラスの水準にする。
- 「IT利用に不安を感じる」とする個人を限りなくゼロにする。

【参考】 基礎、応用、普及・展開の定義

研究開発 フェーズ	基礎	科学技術の基となるアイデア、理論を、実験、観察、調査等により考察し、普遍化、体系化すること。
	応用	基礎段階で提示されたアイデア、理論、実験結果に基づき、実用上有益な手段、プロセス、機器等への適用を目指した研究・開発を、主に限定された環境条件下にて行うこと。

普及・展開フェーズ

基礎、応用研究を通じて得られた知見に基づき、産業上、社会生活上、あるいは、人類の持続的繁栄のために重要と考えられる有益な技術を、コスト、信頼性、耐久性、社会への受け入れ性などの観点を踏まえて、実動作環境下にて実証すること。

例) 実証実験、プロト機製作試験、 実社会への展開を目指した人材育成など。